

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成19年1月25日(2007.1.25)

【公表番号】特表2002-539161(P2002-539161A)

【公表日】平成14年11月19日(2002.11.19)

【出願番号】特願2000-604846(P2000-604846)

【国際特許分類】

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 P 11/00 (2006.01)

A 6 1 P 27/02 (2006.01)

A 6 1 P 35/00 (2006.01)

A 6 1 P 35/04 (2006.01)

C 0 7 K 14/47 (2006.01)

C 1 2 N 15/09 (2006.01)

A 6 1 K 35/12 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 37/02

A 6 1 P 11/00

A 6 1 P 27/02

A 6 1 P 35/00

A 6 1 P 35/04

C 0 7 K 14/47

C 1 2 N 15/00

A

A 6 1 K 35/12

【手続補正書】

【提出日】平成18年11月30日(2006.11.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

ペプチドと製薬上許容される担体とを含む医薬組成物であって、該ペプチドは：

(a)長さが100アミノ酸未満であり；かつ

(b)トロポニンサブユニットIの抑制およびカルボキシ末端領域（配列番号14）と80%よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項2】

前記ペプチドが配列番号14のアミノ酸配列からなる、請求項1記載の組成物。

【請求項3】

前記トロポニンサブユニットIがヒトまたはウシのトロポニンサブユニットIである、請求項1に記載の組成物。

【請求項4】

前記ペプチドが、前記タンパク質をコードするヌクレオチド配列を含むように操作された細胞により組換え的に発現される、請求項1に記載の医薬組成物。

【請求項5】

前記トロポニンサブユニットIが組織に由来する、請求項1に記載の組成物。

【請求項6】

前記組織が軟骨である、請求項5に記載の組成物。

【請求項7】

前記組織が結合、筋肉、神経または上皮である、請求項5に記載の組成物。

【請求項8】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが被験体内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは：

(a)長さが100アミノ酸未満であり；かつ

(b)トロポニンサブユニットIの抑制およびカルボキシ末端領域（配列番号14）と80%よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項9】

ペプチドと製薬上許容される担体とを含む医薬組成物であって、該ペプチドは：

(a)10 μ M以下のIC₅₀を有するbFGF刺激ウシ内皮細胞増殖の抑制物質であり；

(b)長さが少なくとも100個の連続アミノ酸であり；かつ

(c)速筋トロポニンサブユニットC（配列番号1）、トロポニンサブユニットI（配列番号2）、速筋トロポニンサブユニットT（配列番号3）からなる群から選ばれるサブユニットと80%よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項10】

前記トロポニンサブユニットIが組織に由来する、請求項9に記載の組成物。

【請求項11】

前記組織が軟骨である、請求項10に記載の組成物。

【請求項12】

ペプチドと製薬上許容される担体とを含む医薬組成物であって、該ペプチドは：

(a)10 μ M以下のIC₅₀を有するbFGF刺激ウシ内皮細胞増殖の抑制物質であり；かつ

(b)速筋トロポニンサブユニットC（配列番号1）、トロポニンサブユニットI（配列番号2）、速筋トロポニンサブユニットT（配列番号3）からなる群から選ばれる、上記組成物。

【請求項13】

前記トロポニンサブユニットIが組織に由来する、請求項12に記載の組成物。

【請求項14】

前記組織が軟骨である、請求項13に記載の組成物。

【請求項15】

前記ペプチドが、前記タンパク質をコードするヌクレオチド配列を含むように操作された細胞により組換え的に発現される、請求項12に記載の医薬組成物。

【請求項16】

前記ペプチドが、前記タンパク質をコードするヌクレオチド配列を含むように操作された細胞により組換え的に発現される、請求項15に記載の医薬組成物。

【請求項17】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが被験体内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは：

(a)10 μ M以下のIC₅₀を有するbFGF刺激ウシ内皮細胞増殖の抑制物質であり；

(b)長さが少なくとも100個の連続アミノ酸であり；かつ

(c)速筋トロポニンサブユニットC（配列番号1）、トロポニンサブユニットI（配列番号2）および速筋トロポニンサブユニットT（配列番号3）からなる群から選ばれるサブユニットと80%よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項18】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが被験体内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは：

(a)10 μ M以下のIC₅₀を有するbFGF刺激ウシ内皮細胞増殖の抑制物質であり；かつ

(b)速筋トロポニンサブユニットC（配列番号1）、トロポニンサブユニットI（配列番号2）、速筋トロポニンサブユニットT（配列番号3）からなる群から選ばれる、上記

組成物。

【請求項 19】

配列番号 2 のアミノ酸残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) を有するトロポニンサブユニット I の領域を含むペプチド。

【請求項 20】

ペプチドと製薬上許容される担体とを含む、疾患または障害に関連する血管形成を抑制するための医薬組成物であって、該ペプチドは、配列番号 2 のアミノ酸残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) と 80% よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項 21】

疾患または障害に関連する血管形成を抑制するための医薬組成物であって、配列番号 2 の残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) のアミノ酸配列の少なくとも 10 個の連続アミノ酸残基を有するペプチドを含む、上記組成物。

【請求項 22】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) のアミノ酸配列からなる、請求項 20 または 21 に記載の組成物。

【請求項 23】

前記ペプチドが組織に由来する、請求項 20 に記載の組成物。

【請求項 24】

前記組織が結合、筋肉、神経または上皮である、請求項 23 に記載の組成物。

【請求項 25】

前記組織が軟骨である、請求項 23 に記載の組成物。

【請求項 26】

前記ペプチドがヒトまたはウシ起源のものである、請求項 20 に記載の組成物。

【請求項 27】

前記ペプチドが、該ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含むように操作された細胞により組換え的に発現される、請求項 20 または 21 に記載の医薬組成物。

【請求項 28】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが宿主内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは、配列番号 2 のアミノ酸残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) を有するトロポニンサブユニット I の領域と 80% よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項 29】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが宿主内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは、配列番号 2 の残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) のアミノ酸配列の少なくとも 10 個の連続アミノ酸残基を有するトロポニンサブユニット I の領域である、上記組成物。

【請求項 30】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 118～137 (huTnI₁₁₈₋₁₃₇) のアミノ酸配列からなる、請求項 29 に記載の医薬組成物。

【請求項 31】

配列番号 2 の 116～123 (huTnI₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnI₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnI₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnI₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnI₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnI₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnI₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれるアミノ酸残基を有するトロポニンサブユニット I の領域を含むペプチド。

【請求項 32】

配列番号 2 のアミノ酸残基 130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇) を有するトロポニンサブユニット I の領域を含む、請求項 31 に記載のペプチド。

【請求項 33】

配列番号 2 のアミノ酸残基 132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) を有するトロポニンサブユニット

I の領域を含む、請求項31に記載のペプチド。

【請求項 3 4】

ペプチドと製薬上許容される担体とを含む、疾患または障害に関連する血管形成を抑制するための医薬組成物であって、該ペプチドは、配列番号 2 の 116～123 (huTnI₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnI₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnI₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnI₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnI₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnI₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnI₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれるアミノ酸残基と 80% よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項 3 5】

前記ペプチドが、配列番号 2 の 116～123 (huTnI₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnI₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnI₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnI₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnI₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnI₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnI₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれる残基のアミノ酸配列からなる、請求項34に記載の医薬組成物。

【請求項 3 6】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇) または 132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) のアミノ酸配列からなる、請求項34に記載の医薬組成物。

【請求項 3 7】

疾患または障害に関連する血管形成を抑制するための医薬組成物であって、配列番号 2 の 116～123 (huTnI₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnI₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnI₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnI₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnI₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnI₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnI₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれる残基のアミノ酸配列の少なくとも 8 個の連続アミノ酸残基を有するペプチドを含む、上記組成物。

【請求項 3 8】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇) または 132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) のアミノ酸配列の少なくとも 8 個の連続アミノ酸残基を有する、請求項37に記載の医薬組成物。

【請求項 3 9】

前記ペプチドがヒトまたはウシ起源のものである、請求項34に記載の組成物。

【請求項 4 0】

前記ペプチドが組織に由来する、請求項34に記載の組成物。

【請求項 4 1】

前記組織が結合、筋肉、神経または上皮である、請求項40に記載の組成物。

【請求項 4 2】

前記組織が軟骨である、請求項40に記載の組成物。

【請求項 4 3】

前記ペプチドが、該ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含むように操作された細胞により組換え的に発現される、請求項34または37に記載の医薬組成物。

【請求項 4 4】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇) または 132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) のアミノ酸配列からなる、請求項43に記載の組成物。

【請求項 4 5】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが宿主内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは、配列番号 2 の 116～123 (huTnI₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnI₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnI₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnI₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnI₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnI₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnI₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnI₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnI₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれるアミノ酸残基を有するトロポニンサブユニット I の領域と 80% よりも高い相同性がある、上記組成物。

【請求項 4 6】

前記ペプチドが、配列番号 2 の 116～123 (huTnl₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnl₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnl₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnl₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnl₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnl₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnl₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnl₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnl₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれる残基のアミノ酸配列からなる、請求項 45 に記載の医薬組成物。

【請求項 4 7】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 130～137 (huTnl₁₃₀₋₁₃₇) のアミノ酸配列からなる、請求項 45 に記載の医薬組成物。

【請求項 4 8】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 132～139 (huTnl₁₃₂₋₁₃₉) のアミノ酸配列からなる、請求項 45 に記載の医薬組成物。

【請求項 4 9】

前記細胞がヒトまたはウシ起源のものである、請求項 45 に記載の組成物。

【請求項 5 0】

前記細胞が結合、筋肉、神経または上皮細胞である、請求項 45 に記載の組成物。

【請求項 5 1】

前記細胞が軟骨細胞である、請求項 45 に記載の組成物。

【請求項 5 2】

ペプチドをコードするヌクレオチド配列を含む組換え細胞を含んで、該ペプチドが宿主内で発現されるようにする医薬組成物であって、該ペプチドは、配列番号 2 の 116～123 (huTnl₁₁₆₋₁₂₃)、120～127 (huTnl₁₂₀₋₁₂₇)、122～129 (huTnl₁₂₂₋₁₂₉)、124～131 (huTnl₁₂₄₋₁₃₁)、126～133 (huTnl₁₂₆₋₁₃₃)、128～135 (huTnl₁₂₈₋₁₃₅)、130～137 (huTnl₁₃₀₋₁₃₇)、132～139 (huTnl₁₃₂₋₁₃₉) および 134～141 (huTnl₁₃₄₋₁₄₁) からなる群から選ばれる残基のアミノ酸配列の少なくとも 8 個の連続アミノ酸残基を有するトロポニンサブユニット I の領域である、上記組成物。

【請求項 5 3】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 130～137 (huTnl₁₃₀₋₁₃₇) のアミノ酸配列からなる、請求項 52 に記載の医薬組成物。

【請求項 5 4】

前記ペプチドが、配列番号 2 の残基 132～139 (huTnl₁₃₂₋₁₃₉) のアミノ酸配列からなる、請求項 52 に記載の医薬組成物。